

H15 エーエヌ・テック社製洗浄剤クローリン VS、プロトン CL の使用経験

○ 佐伯 智博（さえき ともひろ）¹⁾

田中 弥宏¹⁾、宮本 名月¹⁾、大石 順大¹⁾、安部 利洋¹⁾、榎園 卓真¹⁾、重田 有沙¹⁾、
杉本 謙寿²⁾

1) 医療法人やまびこ会福岡東ほばしらクリニック臨床工学部

2) 医療法人やまびこ会福岡東ほばしらクリニックマネージャー

【背景】

在宅血液透析（以下 HHD）のメンテナンスは施設と異なり居住環境下で作業を行うため装置洗浄剤の取り扱いは、人体へ飛散した場合の危険性や液垂れによる床材への影響、混入による有毒ガスの発生など作業には細心の注意が必要となる。また、透析施設では 2019 年に透析排水基準が策定され排水管理が進められている。HHD では事業所に適応されるような法的な排水の規制はないが、この透析排水基準は HHD においても目標とすべきである。

【目的】

HHD での洗浄剤の取り扱いや排水管理の取り組みとして、中性のエーエヌ・テック社製、抗菌洗浄剤クローリン VS と炭酸 Ca 除去洗浄剤プロトン CL を導入し自宅での使用状況、洗浄能力、コストの検討を行ったので報告する。

【方法】

次亜塩素酸 Na と過酢酸系除菌洗浄剤の原液タンクから容器へ移し替える方法から粉末タイプのクローリン VS は RO 水で溶解して使用、プロトン CL は 1L 容器でボトルごと交換する方法へ変更する。

【結果】

粉末やボトルに変更することで洗浄剤の移し替えがなくなり、洗浄剤の飛散や液垂れを軽減できたがコストは増加した。洗浄能力については現在評価中である。

【考察】

中性洗浄剤により pH は排水基準内で使用でき、洗浄剤の取り扱いも安全性が向上したため患者本人による洗浄剤の管理も可能と考える。しかし、コストは増加しているため洗浄能力の評価と並行して洗浄回数や時間を再考しコスト削減へ努めていくことが課題である。